

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
音楽Ⅱ	2	2年1類A型・3類	選択
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	Tutti 音楽Ⅱ (教育出版)		音楽ノート・随時プリント配布

#### 科目の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を培うとともに、感性を高め、音楽文化についての理解を深め、豊かな表現能力と主体的な鑑賞能力を伸ばす。

#### 評価の観点と方法について

実技テスト、ノート点、平常点

平常点は、授業への取り組みの姿勢や、決められたルールを守っているかなど

	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4  〈器楽〉 ・きらきら星 ・蛍の光 ・糸	カリンバの奏法を学習する	カリンバの奏法を確認し音階、曲を演奏する	カリンバの奏法を取得し、テンポよく曲ができる
	5  〈鑑賞〉 ドラマ「のだめカンタービレ」	さまざまなクラシック音楽に興味を持ち、音楽を創り上げる楽しみや深みを一緒に感じる	全篇、全曲を通して、音楽の醍醐味を感じ取る  名シーンから紡ぎ出される音楽を存分に感じる	交響曲・協奏曲・独奏曲などの構成を理解し、幅広くクラシック音楽に親しむ
	6			
	7  〈実技テスト〉		1人ずつ別室で試験する	・全てにおいてバランス良く評価する

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	〈創作〉 ・カリンバ合奏	各パートの音色を楽しんで合奏に取り組む	同じ楽器の音色、テクニック、合奏の楽しさを味わう。	・指示がしっかり守られているか ・協力して作業が進められているか
	10	・ハンドベルアンサンブル	グループごとに協力してアンサンブルに取り組む	選んだ曲を発表できるように練習する	
		〈鑑賞〉 歌舞伎	歌舞伎の古典・現代作品に触れる	名作・名演を取り上げて鑑賞することで、芸術性を高める	・日本の総合芸術に意欲を持って接する事が出来たか
	11	〈実技テスト〉	グループで練習してきた成果を人前で発表する	仕上がった曲を発表する	・練習の成果を十分に発揮できたか ・しっかりと聴く事ができたか ・全てにおいてバランス良く評価する
	12				
三 学 期	1	〈学習〉 ・楽典	音楽の基礎の復習から応用	譜表と音名～音程、和音まで理解する	・課題を正確にしあげているか
	2	〈鑑賞〉 ミュージカル おうた演奏会	普段目にする事のない総合芸術、宗教音楽に触れてみる	天理教と音楽との繋がりを考えながら鑑賞する	・おうたがどのようなものなのか分かって見ることが出来たか
	3	〈テスト〉 筆記テスト	1年間で学習した内容の復習	1年間通しての復習をする	・内容がしっかりと理解できているか

その他

・進度により授業内容を変更する場合があります。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
美術Ⅱ	2	第2学年1類A型・3類	選択
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		日本文教出版 高校生の美術2	「美術全集」

<p>科目の到達目標</p> <p>美術1をもとに、より深く幅広い内容とする。</p> <p>創造的な工夫を意識した課題を通して表現力を高める。そして現代美術の鑑賞・実技へと移行し、自己の価値観を高め美術文化についての理解を深める事で個性豊かな美術の能力を高める。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>制作過程の様子や完成作品による実技点と、平常点（授業態度等）を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点をもとに、テーマの設定力や技法の開発工夫などが個性豊かで主体的に取り組まれているかという事に留意し、学期毎にABCの3段階で査定する。</p>
---

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	オリエンテーション	高校美術Ⅱの内容を理解する	教科書、美術全集などの資料鑑賞	学習内容に関心を持つ
	5	鑑賞（西洋彫刻史）	カノン等美の法則を学び、石膏デッサンの導入とする。	古代ギリシアから近代までの石膏像と現代作品の画集で鑑賞する。	目で見て、表現の違いに気付く。
		絵画（石膏像デッサン）	物の見方を学び客観的表現を充実させる。	石膏像を鉛筆で描く。講評で要点を確認徹底する。	構図の安定 形の正確さ 明暗調子の理解 観察力
	6	絵画（石膏像ハイコントラストデッサン）	見たものを明快に表現する	前課題と同一石膏像を墨で素描する	明快なイメージ 強い表現力
7	デザイン（マーブリング表現）	使えるものをつくる	紙をマーブリングで染め、テーマにそって工作し、ラミネート加工する。	実用性と美しさ	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	デザイン(立体構成)	イメージを立体で表現する。	各自テーマを決め、針金で自由に構成する。	多面的に形体を追求できる。
		鑑賞(現代美術)	表現領域の広さを学ぶ。 (イメージ画の導入)	教科書、美術全集で主要な現代作品を鑑賞	現代美術の幅広い表現に関心を持つ。
	10	絵画(イメージ画)	表現の幅を持たせる。 心の表現を試みる。	課題テーマ、自由テーマをフロッタージュ・デカルコマニー等の技法を駆使して表現	技法の開発 意図に応じた表現方法を使う。
	11	彫刻(塑像から彫刻へ細密表現)	一つの主題を幅広い技術で追求し、完成度の高い表現をする。	各自テーマを決め、フォルモ粘土で塑造し、乾燥後、緻密に彫刻し、彩色もする。	計画的に制作プロセスを考える。 完成度
	12				
三 学 期	1	鑑賞(デッサン)	素描表現の深さを知る。	教科書、素描集で鑑賞	素描表現に関心を持つ。
	2	絵画(点描デッサン)	技法を限定する中で、深い追究をする。	静物を観察し、ペンで点の集合で描く。	緻密に調子を観察する。 完成度
	3				

その他 ( 履修上の留意点・大学進学のための学習など )

作品課題は真剣に取り組み、参考作品や資料・道具などは大切に扱う。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
芸術科（書道Ⅱ）	2	第2学年1類A型・3類	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	教育出版「書道Ⅱ」	奈良県高等学校書道教育研究会「高等書範」	

<b>科目の到達目標</b> 漢字、仮名は、古典に基づく表現形式と工夫を養い、漢字仮名交じりの書については、名筆に基づく個性的な表現と工夫を迫及し、書道の創造的な活動を通して、書を楽しむ心と感性を育てるとともに個性豊かな表現と鑑賞力を伸ばすことを目的とする。
--

<b>評価の観点と方法について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書を愛好し、書写能力を高め、意欲的に表現や鑑賞の活動を行う。</li> <li>・ 感性を豊かにし、書的美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫する。</li> <li>・ 自己を主体的に表現するために、基礎的な技能を身につけている。</li> <li>・ 書の効用や表現を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。</li> </ul>
○ 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。

	月	学習単元・教材	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	隸書による学習 「曹全碑」	基本的用筆の理解と表現の多様性	種々の古典について表現の多様性を理解する 用筆、運筆、字形について理解する 半紙を横長に4文字書	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。
	5	隸書による学習 「乙瑛碑」  仮名の書 「高野切第一種」	曹全碑との比較から整齊さや筆法、結構の違いを知る  連綿の特徴や技法の習熟 更にきめ細かな鑑賞と分析から美しさを知る	半紙を縦長に6文字書  古筆の中に用いられる代表的な連綿の技法を理解する	
	6	高等書範（1号） 漢字の書 仮名の書 漢字仮名交じりの書	自分なりの表現意図を生かした創意	3分野のうちから2つを選択する 半紙四文字の適当な整え方の理解 書の特徴を意識し技法を習得する 篆書・隸書と仮名の融合をはかる	
	7	天高祭展示 自由作品制作	幅広い書の創造をし、学園祭で展示する	図書室の利用など、幅広い題材を探り楽しく制作する	

	月	学習単元・教材	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	高等書範（昇級） 漢字の書 漢字仮名交じりの書 仮名の書	自分なりの表現意図を生かした絵意	教科書に掲載されている作品すべてを鑑賞し、書風を選択する 多様な作品例により比較鑑賞しながら作品制作する	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。
	10	漢字の書（創作） 仮名の書（創作） 漢字仮名交じりの書	自分なりの表現意図を生かした創意 古典の匂いが残る書を目標とする	漢字や仮名で学んだ様々な筆法を基に、意図・イメージを高め、幅広く表現する	
	11	高等書範（2号） 漢字の書 仮名の書 漢字仮名交じりの書	自分なりの表現意図を生かした創意	3分野のうちから1つを選択する 文字の大小、墨の潤濁、線の太細など豊かで多様な表現を味わう 散らし書きの形式を研究し構成する 運筆のリズム、墨の濃淡、筆圧、構成など幅広い表現を探る	
	12	漢字の書（細楷） 「墓誌銘」	きめ細かな鑑賞と分析、更に伸びやかな線質を目指す	正しい姿勢、基本用筆、腕法を確認する	
三 学 期	1	仮名の書 「関戸本古今集」	きめ細かな鑑賞と分析、更に伸びやかで特有の美しさを知る	正しい姿勢、基本用筆とリズムに注意する	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。
	2	高等書範（3号） 漢字の書 仮名の書 漢字仮名交じりの書	自分なりの表現意図が生かせるよう創意工夫し、2年間の集大成とする	3分野のうちから1つを選択する 初めて経験する色紙や画仙紙に表現することで、異なる感覚を発見する 筆圧の強弱・変化、運筆の遅速・緩急など種々の観点から研究する	
	3	漢字仮名交じりの書 「自作」		2年間の書道の学習を総括して、まとめの作品を作成し、充実感と達成感を味わう	

#### その他（履修上の留意点）

作品の技術的な到達度の評価とともに、各自の技術習得への真剣さや努力の度合い、用具用材の取り扱いや後片付けへの心配りなども評価に取り入れる。

進度により授業内容を変更する場合があります。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
吹奏楽	4	2年生3類 特講	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****			音楽ノート、他

科目の到達目標
表現（歌唱・器楽）と理論という、器楽の追究活動を行うことにより、奏者としての力量を伸ばし、個性と創造性を高め、一手一つの精神を身に付ける。

評価の観点と方法について
各学期末の実技テストと筆記テストと平常点（取り組みの積極性等）を「関心・意欲・態度」「芸術的感受や工夫」「表現技能」「鑑賞能力」の4つの観点から総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	-実技ⅡA-1- ア) スケール イ) エチュード	各自の基礎を確認し、より安定した個人技術の習得に励む	<b>【独奏訓練】</b> （2-初級）  スケール・エチュード・独奏の各教則本を使用して個人技の向上を図る。	1年次に習得した基礎を生かし、積極的に個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	5				
	6	-理論ソルフェージュⅡ-1- ア) 楽典 イ) コールユーブンゲン ウ) 聴音・合唱	音楽演奏の基本である理論やソルフェージュを充実させ、合唱曲にも挑戦する。	<b>【楽典・コールユーブンゲン・聴音】</b> （2-初級）  音楽の論理的な解釈法。肉体による表現。音符の聴力、表現力の強化。	1年次に習得した基礎を生かし、二年初級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	7	<b>【一学期実技テスト】</b>			

	月	学習单元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	-実技ⅡA-2- ア) スケール イ) エチュード ウ) ソロ	一学期の各自の基礎を確認し、より安定した個人技術の習得に励む	<b>【独奏訓練】</b> (2-中級)	積極的に中級の個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	10				
	11	-理論ソルフェージュⅡ-2- ア) 楽典 イ) コールユーブンゲン ウ) 聴音・合唱	一学期に学んだ理論やソルフェージュをより充実させ、合唱曲にも挑戦する。	<b>【楽典・コールユーブンゲン・聴音】</b> (2-中級)	中級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	12	<b>【二学期実技テスト】</b>			
三 学 期	1	-実技ⅡA-3- ●まとめ	ソロのまとめの曲を仕上げる。	<b>【年間計画第三段階】</b> (2-上級) 年間のまとめ	積極的に上級の個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	2	-理論ソルフェージュ ●まとめ	理論・ソルフェージュの上級を実習する。		上級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	3	-鑑賞 -  <b>【三学期実技テスト】</b>	プロの演奏家やコンクール等の映像を鑑賞し、レポートを書く。	<b>【成果発表会】</b>	より高度な演奏を聴き、分析評価できるか。また自分の課題を明確化できるか。

その他（履修上の留意点・大学進学のための学習など）  
ノートは五線と罫線の入った指定のものを使用のこと。  
配られたプリントはなくさないように保管すること。